

[Research Report]

Attempt for Co-Medical Education Based on Measurement of Sense of Coherence (SOC)

— Search of generalized resistant resources (GRRs) in student life of undergraduate students of co-medical university —

Hideki Kishida and Manabu Ashikaga*

* Aino University

Abstract

PURPOSE is a search of generalized resistant resources (GRRs) against stressors in student life, based on measurement of SOC of undergraduate students of co-medical university. **OBJECT**: 578 records was analyzed. **METHODE**: questionnaire survey, and we examine significant differences among SOC means of plural groups which are classified in according with the classification of each factors of student life. **RESULTS**: SOC mean of 578 students is 48.5, Cronbach's α is 0.75. As results of significant tests, we discovered some points related to GRRs below,

1. Adaptation to the present situation,
2. Spontaneity and group activities,
3. Extent of circle of friends,
4. Interests in classmates and teachers of same department and office personnel, which are indispensable for maintenance of students' SOC,
5. Interests in the union or interest groups or Students JOB that are based on spontaneity of students themselves, which are indispensable for improvement of students' SOC,
6. Sanctity of Life (SOL),

DISCUSSION: the above points correspond with students' meaningfulness. We hardly discover any points related to GRRs corresponding with students' comprehensibility or manageability. Especially, the students who will be nurses or therapists will have to satisfy the QOL (Quality of Life) demand of patients in hospitals and other places, and therefore we need to research some points related to GRRs corresponding with students' comprehensibility.

Key Words: co-medical education, undergraduate students of co-medical university, sense of coherence (SOC), Generalized resistant resources (GRRs), Sanctity of Life (SOL)

首尾一貫感覚 (SOC) 測定に基づく医療系教育論の試み

—— 医療系学生生活におけるストレス一般抵抗資源 (GRRs) の検索 ——

岸田 秀樹*, 足利 学*

【要旨】 医療系学生生活に一般抵抗資源 (GRRs) を検索することを目的に学生対象に質問紙調査を実施し、578名を分析対象とした。そのSOC平均値は48.5、クロンバック α 係数は0.75であった。操作的な多元的カテゴリーの平均値間の有意差検定の結果、GRRsとして①現状に対する適応、②学生による自発性と集団活動、③交際関係の広さ、④同学科同級生・教員および事務職員への関心、⑤学生自治会・サークル・Students JOBなど自発性に基づく活動への関心、⑥生命の尊厳 (SOL) を検出した。以上のうち、④はSOC維持のために、⑤はSOC向上のために役立つGRRsと考えられた。他方、①～⑥は学生の主として有意味感に対応するGRRsであったが、把握可能感、処理可能感に対応するGRRsは検出できなかった。特に将来学生がQOL要求に応えるため、把握可能感の向上が必要であり、それに対応するGRRsの検索が必要である。

キーワード：医療教育、医療系大学生、首尾一貫感覚 (SOC)、一般抵抗資源 (GRRs)、生命の尊厳 (SOL)

I はじめに

本研究は2008年、本学一部学科を対象に実施した地域健康調査プレテストで、学生の首尾一貫感覚 (Sense of Coherence: 以下SOCと略記) を測定したこと¹⁾を発端とする。

上記プレテストではSOC13項目版 (得点範囲13～91) を使用し、分析対象のSOC平均値は48.1であった。この結果は医療系学生を対象とした先行研究²⁻⁴⁾よりも低く、分析対象にストレス対処能力の低い学生が比較的多く含まれることを予想させた。

他方、医療現場は究極的に人の生死にかかわる非日常性が支配し、生体の不確実性に由来する緊張が持続する、きわめてストレスフルな環境である。しかも近年の医療をめぐる様々な出来事や論議は、医療従事者

と患者との信頼関係を揺さぶりつつ、ますますストレスを強化しているように見える。

われわれの医療教育の目的が学生を医療現場に適応させることにあり、医療系固有のストレスを避けることができないとすれば、学生たちがストレスに対応し、自らのSOCを高めることができる一般抵抗資源⁵⁾ (Generalized Resistant Resources: GRRs) を学生生活に見出すことは学生のみならず、教員にとっても切実な教育的課題である。

そこで、医療系大学の学生生活にGRRsを検索することを目的とした質問紙調査を本学学生対象に実施した。以下では結果を速報し、医療教育とGRRsに関する論点を整理する。

* 藍野大学作業療法学科

II 対象と方法

対象：平成 21 (2009) 年 10 月 1 日に在籍した 3 学科の学生 726 名。

方法：質問紙調査。調査期間は平成 21 年 12 月から平成 22 年 1 月末。今回、SOC 平均値を報告するのは下記の 1)~5) である。

1) SOC 測定

SOC13 項目版 (英語版⁶⁾ から翻訳した) を使用し、各項目の点数を合算し、その得点が高くなるほどストレス対処能力が高いと判断する。SOC 尺度を構成する 3 因子の概要は、下記の通りである。

- ・把握可能感 (comprehensibility: co) : 自分の内的・外的環境に生じる出来事を予見し、説明することができると感じる程度。5 項目 (得点範囲 5~35)。
- ・処理可能感 (manageability: ma) : 上記の出来事に対処する諸資源を自由に使うことができると感じる程度。4 項目 (同 4~28)。
- ・有意味感 (meaningfulness: me) : 上記の出来事に係ることが挑戦であり、心身を投入するに値するという確信の程度。4 項目 (同 4~28)。

2) 基本属性

① 所属学科, ② 学年, ③ 性別, ④ 年齢。

3) 暮らし向き

① 居住形態, ② 同居者, ③ 居住地愛着, ④ 仕送り (月額), ⑤ アルバイト頻度 (月), ⑥ アルバイト収入 (月額), ⑦ 自由使用金額 (月額)。

4) 大学生活

① 大学関連施設で満足な施設, ② 大学関連施設で不満な施設, ③ あいさつする相手, ④ 良好な関係にある相手, ⑤ 助けてくれる相手, ⑥ 助けるつもり相手。

5) 自殺行為をめぐる医療倫理

自殺行為に対する認知の仕方, 対応の仕方について選択回答。

分析方法: 2), 3) : 単に集計結果を示し, 分析対象に対する医療教育の条件を確認し, GRRs との関連を考察する。4) : 回答により回答者を複数カテゴリーに分類し, 各カテゴリーの SOC 平均値間の有意差を検

定する。5) : 自殺行為に対する認知の仕方により「生命の尊厳 Sanctity of Life: SOL」準拠群と「生命の質 Quality of Life: QOL」準拠群, 対応の仕方により積極群と消極群を分類し, それらの SOC 平均値間の有意差を検定する。

倫理的配慮: 各学科長の承認を得て質問紙を配布し, 調査目的, 倫理事項等を質問紙表紙および口頭で説明し, 任意で調査票を回収する。質問紙は電算化終了時に粉砕破棄し, 電算化データは研究室にて厳重保管する。

III 結果

配布 726 名のうち, 分析対象は SOC 尺度にもれなく回答した 578 名 (79.6%) である。

1) SOC 平均値と得点階層別得点者数

今回の分析対象の SOC 平均値は 48.5 (表 1), クロムバックの α 係数は 0.75 であった。図 1 から, 得点階級 50~54 (154 名) を中心として, 49 以下の得点者 (292 名) の方が 55 以上の得点者 (132 名) より多いことが分かる。

表 1 SOC 平均値

学科	n	SOC 平均値			
		total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)
total	578	48.5	17.5	14.6	16.4

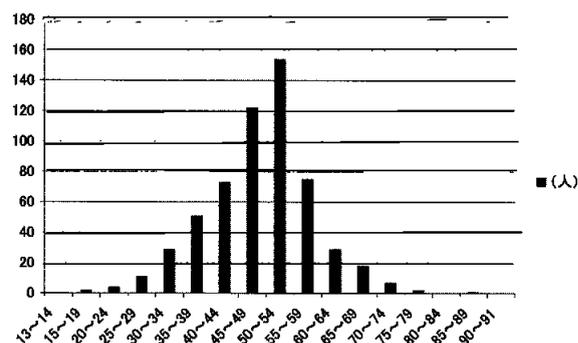


図 1 SOC 得点階級別得点者分布

2) 基本属性 (表 2~6)

学科ごと (表 2), 学年ごと (表 3), 性別ごと (表 4), 年齢ごと (表 5) に異なる SOC 平均値を示している。特に学年ごとの SOC 平均値は上級生ほど低く見えるが, 4 年生は B 学科のみのため組織的比較はできず, C 学科は 2 年生の SOC 平均値が最も高い (表 6)。

表2 学科別 SOC 平均値

学科	n	SOC 平均値			
		total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)
A 学科	234	48.3	17.3	14.5	16.5
B 学科	137	46.9	16.9	14.0	16.1
C 学科	206	49.8	18.2	15.0	16.6
無回答	1	—	—	—	—
total	578	48.5	17.5	14.6	16.4

表3 学年別 SOC 平均値

学年	n	SOC 平均値			
		total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)
1 年生	154	50.3	17.9	15.1	17.2
2 年生	191	48.9	17.7	14.5	16.6
3 年生	175	47.2	17.0	14.4	15.7
4 年生	57	46.6	17.3	13.9	15.5
無回答	1	—	—	—	—
total	578	48.5	17.5	14.6	16.4

表4 性別 SOC 平均値

性別	n	SOC 平均値			
		total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)
f	330	47.8	17.0	14.3	16.5
m	247	49.4	18.2	14.9	16.3
無回答	1	—	—	—	—
total	578	48.5	17.5	14.6	16.4

表5 年齢別 SOC 平均値

年齢	n	SOC 平均値			
		total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)
18	39	51.0	18.1	15.4	17.5
19	155	49.0	17.6	14.8	16.6
20	170	49.0	17.8	14.5	16.8
21	134	46.8	16.8	14.4	15.6
22~	79	48.2	17.8	14.2	16.1
無回答	1	—	—	—	—
total	578	48.5	17.5	14.6	16.4

表6 学科・学年による SOC 平均値

学科・学年	n	SOC 平均値			
		total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)
A・1	72	50.8	18.1	14.9	17.8
A・2	80	48.2	17.6	14.3	16.4
A・3	82	46.2	16.3	14.4	15.5
B・1	28	50.8	17.7	15.9	17.3
B・2	32	46.3	16.8	12.9	16.6
B・3	20	43.2	14.7	13.4	15.2
B・4	57	46.6	17.3	13.9	15.5
C・1	54	49.4	17.9	15.0	16.6
C・2	79	50.6	18.3	15.4	16.9
C・3	73	49.3	18.5	14.6	16.2
無回答	1	—	—	—	—
total	578	48.5	17.5	14.6	16.4

3) 暮らし向き (表7~13)

ここで注目すべきは、調査時期に「家族に仕送り」をした学生が9名記録されていることである(表10)。この事実は、学生の学業を支える家族経済に急変が生じたことを予想させる。さらに「仕送りなし」を加えると237名(41.0%)になり、5万円未満を加えれば473名(81.8%)におよぶ。「自由に使えるお金」も、5万円未満が495名(85.6%)である(表13)。学生の経済生活は全般的に儉しく、近年の経済不況の影響を感じさせる。

表7 居住形態

	n	SOC 平均値			
		total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)
自宅	413	48.6	17.5	14.6	16.4
アパート	164	48.2	17.5	14.4	16.3
無回答	1	—	—	—	—
total	578	48.5	17.5	14.6	16.4

表8 同居者

	n	SOC 平均値			
		total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)
いる	423	48.7	17.5	14.6	16.5
いない	151	48.2	17.5	14.4	16.2
無回答	4	47.5	19.0	14.5	14.0
total	578	48.5	17.5	14.6	16.4

表9 居住地愛着

	n	SOC 平均値			
		total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)
居住続行	246	49.3	17.6	14.8	16.9
引越希望	207	46.7	17.1	13.9	15.7
考えない	120	49.9	18.0	15.2	16.7
無回答	5	49.2	17.2	15.8	16.2
total	578	48.5	17.5	14.6	16.4

表10 仕送り

	n	SOC 平均値			
		total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)
家族に仕送	9	46.1	17.3	12.8	16.0
仕送りなし	228	48.8	17.8	14.8	16.2
1万円~5万円未	236	48.3	17.3	14.4	16.6
5万円~10万円未	80	48.8	17.8	14.6	16.5
10万円~15万円未	16	47.2	16.2	14.6	16.4
15万円以上	2	50.0	15.0	16.5	18.5
無回答	7	49.9	19.3	14.3	16.3
total	578	48.5	17.5	14.6	16.4

表 11 バイト頻度

	n	SOC 平均値			
		total(/91)	co(/35)	ma(/28)	me(/28)
0回	197	47.8	17.2	14.7	15.9
1~4回	173	49.2	17.7	14.6	16.9
5~8回	75	49.2	18.1	14.4	16.7
9~12回	64	47.4	17.5	13.9	16.0
13回~	63	49.4	17.4	15.0	17.0
無回答	2	51.0	21.5	14.5	15.0
FALSE	4	—	—	—	—
total	578	48.5	17.5	14.6	16.4

*FALSE：バイト頻度が「0回」と「バイト収入あり」の組み合わせ。

表 12 バイト収入

	n	SOC 平均値			
		total(/91)	co(/35)	ma(/28)	me(/28)
0円	197	47.8	17.2	14.7	15.9
1円~5万円未	256	48.6	17.6	14.4	16.6
5万円~10万円未	106	49.4	17.9	14.7	16.8
10万円~15万円未	11	50.4	18.6	14.8	16.9
15万円以上	2	52.0	17.5	17.0	17.5
無回答	2	52.5	19.5	14.5	18.5
FALSE	4	—	—	—	—
total	578	48.5	17.5	14.6	16.4

表 13 自由に使える金額

	n	SOC 平均値			
		total(/91)	co(/35)	ma(/28)	me(/28)
0円~1万円未	94	47.9	17.6	14.5	15.8
1万円~2万円未	137	47.8	17.3	14.3	16.2
2万円~3万円未	141	48.5	17.3	14.5	16.7
3万円~4万円未	65	49.4	18.2	14.3	16.9
4万円~5万円未	58	48.8	17.2	14.6	16.9
5万円~	79	49.3	17.7	15.4	16.2
無回答	4	57.5	21.5	17.3	18.8
total	578	48.5	17.5	14.6	16.4

4) 大学生活 (表 14~22)

「施設に対する満足・不満」では、大学関連施設を列挙し、まず満足する施設にチェックしてもらい、次に不満な施設にチェックしてもらった。その結果、回答者は満足・不満のいずれかに答えた満足群・不満群、両方に答えた両方群、いずれにも答えなかった無回答群に分かれた。以上4群から回答者がごく僅かである両方群を除いて、満足群・不満群・無回答群のSOC平均値とそれらの間のt検定結果を示したのが表14である。

不満群のSOC平均値はどの施設でも3群中最低であり、視聴覚施設、トイレを除いて、満足群、無解答群のいずれか、あるいは両群との間に有意差が認めら

れた。

無解答群と満足群のSOC平均値間に有意差は、中央図書館を除いて、認められなかった。これは無解答群の見解が満足に近いと言うより、満足・不満の見解を迫る問題を感じなかったか、見解に意味を見出さなかった、現状に適應した状態と考える方が現実的である。満足群は現状適應に基づく。とすれば、不満群には何らかの不適應を疑うことができる。

満足群と不満群ではSOC平均値はどの施設でも満足群の方が高く、特に学内実習施設、演習室、中央図書館、関連病院では満足群が有意に高く、教室、視聴覚施設、更衣室、トイレでは有意差は認められなかった。

以上から、現状に適應している学生のSOC平均値は高いと考えられる。また満足群のSOC平均値が有意に高い施設は実習、演習等の場として学生による自律性と集団行動が求められる点で共通し、有意差のない施設では個人行動に帰着することが見て取れる。

以下では、学生が大学生活で関わる相手を「あいさつする相手」、「良好な関係にある相手」、「助けてくれると期待する相手」、「助けるつもり相手」とし、それぞれの相手が該当するカテゴリーにチェックしてもらった。その際、Students JOBとは学内施設の保守清掃等を任務とする有償業務に携わる学生組織である。

表15では、学生が大学生活で関わる相手のカテゴリーを列挙し、「あいさつする相手」のカテゴリーにチェックしてもらい、あいさつした「はい」群と無回答群の間にSOC平均値のt検定を行った。いずれのカテゴリーでも「はい」群のSOC平均値が高く、同学科教員、病院関係者、学生自治会で有意差が認められた。

表16では、回答者がチェックしたカテゴリー数ごとにSOC平均値を示した。回答者の平均カテゴリー数5.6に着目し、0~5(SOC平均値47.7)と6~14(同49.3)のあいだでt検定を行ったところ、 $p < .05$ 水準の有意差が認められた。3因子では有意感(me)で、0~5(同15.8)と6~14(同17.0)の間に $p < .001$ 水準の有意差が認められた。

表17では、表15と同様のカテゴリーを列挙し、「良好な関係にある相手」のカテゴリーについて同様の作業を求めた。「近隣住民」を除く、すべてのカテゴリーで「はい」群のSOC平均値が高い。有意差は、同学科同級生・教員、他学科同級生・教員、事務職員、

表14 施設に対する満足・不満

	attitude	n	SOC 平均値				検定結果 (total)		
			total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me(/28)	満足 × 不満	無回答 × 不満	無回答 × 満足
教室	満足群	92	48.6	17.4	14.5	16.7		**	
	不満群	320	47.7	17.2	14.3	16.1			
	無回答群	164	50.2	18.2	15.2	16.8			
学内実習施設	満足群	110	50.6	18.5	15.0	17.2	***	***	
	不満群	170	46.1	16.8	13.9	15.5			
	無回答群	298	49.1	17.6	14.8	16.7			
教員研究室	満足群	61	50.3	17.8	14.7	17.9	*		
	不満群	80	46.7	17.1	14.1	15.5			
	無回答群	435	48.6	17.6	14.6	16.4			
演習室	満足群	84	51.1	18.4	15.1	17.5	***	**	
	不満群	143	46.1	16.6	13.9	15.6			
	無回答群	351	48.9	17.7	14.7	16.5			
視聴覚施設	満足群	8	52.4	19.0	17.4	16.0			
	不満群	102	46.8	17.3	14.1	15.4			
	無回答群	468	48.8	17.6	14.6	16.6			
Iホール	満足群	99	50.2	18.0	14.9	17.3	**	*	
	不満群	143	46.8	17.2	13.8	15.8			
	無回答群	335	48.8	17.5	14.9	16.4			
更衣室	満足群	37	50.8	18.3	15.0	17.5		**	
	不満群	374	47.7	17.1	14.2	16.3			
	無回答群	166	50.0	18.3	15.3	16.4			
トイレ	満足群	72	48.9	17.7	14.9	16.3			
	不満群	322	48.0	17.4	14.3	16.3			
	無回答群	182	49.3	17.7	15.0	16.7			
中央図書館	満足群	158	51.0	18.2	15.3	17.5	***		**
	不満群	264	47.2	17.2	14.1	15.9			
	無回答群	150	48.1	17.3	14.7	16.1			
学食	満足群	65	50.7	18.5	15.4	16.8	*		
	不満群	282	47.6	17.2	14.3	16.1			
	無回答群	230	49.0	17.7	14.6	16.7			
関連病院	満足群	46	51.8	18.6	15.5	17.7	***	***	
	不満群	137	45.3	16.6	13.5	15.2			
	無回答群	395	49.2	17.7	14.8	16.7			

*p<.05
**p<.01
***p<.001

学生自治会・サークル・Students JOB で認められた。

表18では、表16と同様の作業を行った。回答者の平均カテゴリ数2.3に着目し、0~2 (SOC 平均値47.2) と3~10 (同50.2) の間でt検定を行ったところ、p<.001水準の有意差が認められた。3因子では有意味感 (me) で、0~2 (同15.6) と3~10 (同17.3) のあいだにp<.001水準の有意差が認められた。

表19では、表15と同様のカテゴリを列挙し、回答者が「助けてくれると期待する相手」のカテゴリについて同様の作業を求めた。同学科後輩を除く、すべてのカテゴリで「はい」群のSOC平均値が高い。有意差は同学科同級生・教員、事務職員、学生自治会

で認められた。

表20では、表16と同様の作業を行った。回答者の平均カテゴリ数1.8に着目し、0~1 (SOC 平均値46.8) と2~7 (同49.7) の間でt検定を行ったところ、p<.001水準の有意差が確認された。3因子では理解可能感 (co) でp<.05水準、有意味感 (me) でp<.001水準の有意差が認められた。

表21では、表15と同様のカテゴリを列挙し、回答者が「助けるつもりの方」のカテゴリについて同様の作業を求めた。他学科後輩を除く、すべてのカテゴリで「はい」群のSOC平均値が高い。有意差は同学科同級生、他学科同級生、事務職員で認められた。

表 15 あいさつする相手

	attitude	n	SOC 平均値				t 検定結果
			total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)	
同学科同級生	はい	554	48.6	17.6	14.6	16.5	
	無回答	24	45.7	16.8	14.1	14.8	
同学科先輩	はい	325	49.1	17.9	14.4	16.7	
	無回答	253	48.1	17.3	14.7	16.1	
同学科後輩	はい	119	48.8	17.9	14.2	16.7	
	無回答	459	48.4	17.5	14.7	16.3	
同学科教員	はい	535	48.8	17.6	14.6	16.5	*
	無回答	43	45.4	16.8	13.7	14.9	
他学科同学年	はい	258	49.2	17.9	14.4	16.9	
	無回答	320	48.0	17.2	14.7	16.0	
他学科先輩	はい	101	50.2	18.4	14.7	17.1	
	無回答	477	48.2	17.3	14.6	16.3	
他学科後輩	はい	45	48.8	17.9	13.8	17.1	
	無回答	533	48.5	17.5	14.6	16.3	
他学科教員	はい	381	48.7	17.5	14.6	16.6	
	無回答	197	48.2	17.6	14.5	16.1	
事務職員	はい	331	49.0	17.6	14.8	16.6	
	無回答	247	47.9	17.4	14.3	16.1	
図書館職員	はい	200	48.8	17.2	14.6	17.0	
	無回答	378	48.3	17.7	14.6	16.1	
他の職員	はい	205	49.1	17.5	14.7	16.9	
	無回答	373	48.2	17.6	14.5	16.1	
近隣住民	はい	51	50.4	18.0	15.1	17.3	
	無回答	527	48.3	17.5	14.5	16.3	
病院関係者	はい	78	51.6	18.1	15.7	17.8	**
	無回答	500	48.0	17.5	14.4	16.2	
学生自治会	はい	37	51.6	18.6	14.5	18.5	*
	無回答	541	48.3	17.5	14.6	16.3	
サークル	はい	76	49.5	18.0	14.7	16.8	
	無回答	502	48.4	17.5	14.6	16.4	
Students JOB	はい	15	52.0	19.2	14.2	18.6	
	無回答	563	48.4	17.5	14.6	16.3	

表 16 あいさつするカテゴリ数

	n	SOC 平均値			
		total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)
0	3	40.0	16.0	12.0	12.0
1	16	43.1	16.1	13.9	13.1
2	40	48.5	17.4	15.0	16.1
3	62	47.1	16.7	14.2	16.2
4	89	48.9	18.1	15.0	15.8
5	85	47.7	17.1	14.5	16.1
6	93	47.7	17.4	13.9	16.3
7	64	49.8	17.9	14.9	16.9
8	52	51.3	18.5	15.0	17.7
9	32	48.7	17.3	14.9	16.4
10	19	48.3	16.3	13.7	18.3
11	10	50.5	18.9	14.1	17.5
12	7	55.9	21.4	15.3	19.1
13	3	53.3	17.7	16.7	19.0
14	2	49.0	17.5	14.0	17.5
15	1	—	—	—	—
16	0	—	—	—	—

表 22 では、表 16 と同様の作業を行った。回答者の平均カテゴリ数 2.7 に着目し、0~2 (SOC 平均値 47.8) と 3~16 (同 49.8) の間で t-検定を行ったところ、 $p < .05$ 水準の有意差が認められた。3 因子では有意感 (me) で、3~16 (同 17.3) は 0~2 (同 15.9) よりも有意 ($p < .001$) に高かった。

以上の表 16, 18, 20, 22 から、交際範囲が広い方が SOC 平均値は有意に高く、それは特に回答者の有意感に関わることが見られた。

交際範囲の中では同学科同級生は関係が良好と考えられるか否か (表 17), 助け、助けられると考えられるか否か (表 19, 21) によって回答者の SOC 測定値に影響していた。同様のパターンは事務職員にも見られた。同学科教員はあいさつするか否か (表 15), 関係が良好と考えられるか否か (表 17), 助けられると考えられるか否か (表 19) が影響していた。同学科

表17 良好な関係

	attitude	n	SOC 平均値				t 検定結果
			total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)	
同学科同級生	はい	549	48.7	17.6	14.6	16.5	*
	無回答	29	44.5	16.5	13.1	14.9	
同学科先輩	はい	166	49.4	17.8	14.6	17.0	
	無回答	412	48.2	17.4	14.6	16.2	
同学科後輩	はい	84	48.9	18.1	13.9	17.0	
	無回答	494	48.4	17.4	14.7	16.3	
同学科教員	はい	298	49.5	17.6	14.6	17.3	**
	無回答	280	47.5	17.4	14.5	15.5	
他学科同学年	はい	186	50.0	18.0	14.6	17.4	**
	無回答	392	47.8	17.3	14.6	15.9	
他学科先輩	はい	58	50.0	17.9	14.9	17.3	
	無回答	520	48.3	17.5	14.5	16.3	
他学科後輩	はい	30	50.1	18.4	14.6	17.1	
	無回答	548	48.4	17.5	14.6	16.4	
他学科教員	はい	35	52.9	19.1	15.8	18.1	**
	無回答	543	48.2	17.4	14.5	16.3	
事務職員	はい	41	51.9	18.1	15.2	18.6	*
	無回答	537	48.3	17.5	14.5	16.2	
図書館職員	はい	23	49.3	17.5	14.5	17.3	
	無回答	555	48.5	17.5	14.6	16.4	
他の職員	はい	23	49.4	18.0	14.4	17.0	
	無回答	555	48.5	17.5	14.6	16.4	
近隣住民	はい	14	48.0	17.9	14.5	15.6	
	無回答	564	48.5	17.5	14.6	16.4	
病院関係者	はい	7	50.0	19.7	14.4	15.9	
	無回答	571	48.5	17.5	14.6	16.4	
学生自治会	はい	23	53.5	19.0	15.6	19.0	*
	無回答	555	48.3	17.5	14.5	16.3	
サークル	はい	65	51.7	18.8	15.1	17.8	**
	無回答	513	48.1	17.4	14.5	16.2	
Students JOB	はい	6	57.5	21.2	16.3	20.0	*
	無回答	572	48.4	17.5	14.6	16.4	

表18 良好な関係にあるカテゴリー数

	n	SOC 平均値			
		total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)
0	15	44.0	16.7	12.6	14.7
1	151	46.4	16.9	14.5	15.0
2	159	48.3	17.3	14.6	16.3
3	93	50.9	18.3	15.3	17.4
4	66	48.4	17.9	14.0	16.5
5	33	49.5	17.5	14.6	17.4
6	28	51.7	18.2	14.2	19.3
7	17	47.1	16.9	13.5	16.6
8	8	58.3	22.1	17.5	18.6
9	2	54.0	18.0	15.5	20.5
10	5	52.6	18.4	16.0	18.2
11	0	—	—	—	—
12	1	—	—	—	—
13	0	—	—	—	—
14	0	—	—	—	—
15	0	—	—	—	—
16	0	—	—	—	—

同級生・教員、事務職員との関係は回答者の大学生生活の基礎を構成している。

さらに、学生の自発性に基づく学生自治会・サークル・Students JOB のいずれかにチェックした回答者のSOC 平均値 50.3 (n=127) は残り回答者のそれ 48.0 (n=451) よりも有意 (p<.05) に高かった。3 因子では有意味感で前者 17.3 は後者 15.9 より有意 (p<.001) に高かった。

5) 自殺行為をめぐる医療倫理 (表23~24)

医療倫理は元来 SOL に基づくが、近年ますます QOL が医療現場に浸透している。

しかし SOL と QOL には調和困難な局面があり、その典型が自殺行為：生命放棄の自己決定の捉え方である⁷⁾。SOL 準拠者は生命放棄を「生命に反する行為」(表23) として非難しなければならない。QOL 準

表 19 助けてくれる関係

	attitude	n	SOC. ave				t 検定結果
			total. (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)	
同学科同級生	はい	540	48.8	17.6	14.7	16.6	**
	無回答	38	44.3	17.3	13.2	13.8	
同学科先輩	はい	98	49.6	18.1	14.7	16.8	
	無回答	480	48.3	17.4	14.6	16.3	
同学科後輩	はい	16	48.4	17.6	13.8	17.0	
	無回答	562	48.5	17.5	14.6	16.4	
同学科教員	はい	260	49.4	17.7	14.7	17.0	*
	無回答	318	47.8	17.4	14.5	15.9	
他学科同学年	はい	69	50.0	18.0	14.6	17.4	
	無回答	509	48.3	17.5	14.6	16.3	
他学科先輩	はい	23	49.6	18.0	14.3	17.3	
	無回答	555	48.5	17.5	14.6	16.4	
他学科後輩	はい	3	48.7	17.7	13.3	17.7	
	無回答	575	48.5	17.5	14.6	16.4	
他学科教員	はい	12	50.3	18.4	14.2	17.7	
	無回答	566	48.5	17.5	14.6	16.4	
事務職員	はい	8	56.8	21.1	16.8	18.9	*
	無回答	570	48.4	17.5	14.5	16.4	
図書館職員	はい	3	57.3	23.7	17.7	16.0	
	無回答	575	48.5	17.5	14.6	16.4	
他の職員	はい	7	50.3	18.9	14.1	17.3	
	無回答	571	48.5	17.5	14.6	16.4	
近隣住民	はい	4	49.8	18.3	15.5	16.0	
	無回答	574	48.5	17.5	14.6	16.4	
病院関係者	はい	2	56.5	17.0	17.0	22.5	
	無回答	576	48.5	17.5	14.6	16.4	
学生自治会	はい	12	55.4	19.3	16.3	19.8	*
	無回答	566	48.4	17.5	14.5	16.3	
サークル	はい	26	49.5	17.7	14.7	17.1	
	無回答	552	48.5	17.5	14.6	16.4	
Students JOB	はい	1	—	—	—	—	
	無回答	577	—	—	—	—	

表 20 助けてくれる関係にあるカテゴリー数

	n	SOC. ave			
		total. (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)
0	23	42.5	17.0	13.3	12.3
1	219	47.3	17.1	14.4	15.8
2	228	49.4	17.7	14.7	17.0
3	61	51.5	18.6	15.4	17.4
4	26	48.1	17.5	13.9	16.7
5	11	48.3	17.2	13.8	17.3
6	6	54.3	19.8	16.3	18.2
7	2	48.0	17.5	12.0	18.5
8	1	—	—	—	—
9	1	—	—	—	—
10	0	—	—	—	—
11	0	—	—	—	—
12	0	—	—	—	—
13	0	—	—	—	—
14	0	—	—	—	—
15	0	—	—	—	—
16	0	—	—	—	—

拠者は生命放棄であっても、その個人の「自己決定」であれば、「個人の価値観に基づく正当な行為」(同)として尊重しなければならない。

こうした規範的対立が SOC にどのように影響するかは興味深い問題であるが、SOL、QOL がそれぞれ SOC 平均値にどのように作用しているかが先決問題である。

表 23 では「生命に反する行為」を選択した SOL 準拠群の SOC 平均値は 50.9 で 5 選択肢中最高であり、「個人の価値観に基づく正当な行為」の QOL 準拠群の SOC 平均値は 44.4 で最低であった。それらの t 検定の結果、SOL 準拠群は QOL 準拠群より SOC 平均値が有意 ($p < .001$) に高かった。3 因子では処理可能感、有意味感で前者は後者より有意 (共に $p < .001$) に高かった。

表 24 では「放置すればよい」「真意を受け止めるべ

表21 助けるつもりの関係

	attitude	n	SOC. ave				t 検定結果
			total. (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)	
同学科同級生	はい	556	48.8	17.6	14.6	16.5	***
	無回答	22	41.3	15.2	12.7	13.4	
同学科先輩	はい	154	49.4	17.7	14.7	17.0	
	無回答	424	48.2	17.5	14.5	16.2	
同学科後輩	はい	142	49.0	17.6	14.5	16.9	
	無回答	436	48.4	17.5	14.6	16.2	
同学科教員	はい	178	49.1	17.6	14.4	17.2	
	無回答	400	48.2	17.5	14.7	16.1	
他学科同学年	はい	183	50.1	17.9	14.7	17.6	**
	無回答	395	47.8	17.4	14.5	15.9	
他学科先輩	はい	64	50.4	18.0	14.8	17.6	
	無回答	514	48.3	17.5	14.5	16.3	
他学科後輩	はい	52	48.3	16.9	14.1	17.2	
	無回答	526	48.5	17.6	14.6	16.3	
他学科教員	はい	45	50.2	17.9	14.9	17.4	
	無回答	533	48.4	17.5	14.5	16.3	
事務職員	はい	23	52.4	19.2	15.3	17.8	*
	無回答	555	48.4	17.5	14.5	16.3	
図書館職員	はい	17	50.8	18.1	15.8	17.0	
	無回答	561	48.4	17.5	14.5	16.4	
他の職員	はい	21	48.8	17.3	14.8	16.7	
	無回答	557	48.5	17.5	14.6	16.4	
近隣住民	はい	29	50.6	18.0	15.1	17.5	
	無回答	549	48.4	17.5	14.5	16.3	
病院関係者	はい	17	51.1	18.0	15.9	17.2	
	無回答	561	48.4	17.5	14.5	16.4	
学生自治会	はい	30	52.6	18.6	15.3	18.7	
	無回答	548	48.3	17.5	14.5	16.3	
サークル	はい	55	50.5	18.3	14.8	17.4	
	無回答	523	48.3	17.5	14.5	16.3	
Students JOB	はい	11	50.7	17.5	15.3	17.9	
	無回答	567	48.5	17.5	14.6	16.4	

表22 助けるつもりの関係にあるカテゴリ-数

	n	SOC. ave			
		total. (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)
0	17	42.3	15.6	13.3	13.4
1	222	47.2	17.2	14.4	15.5
2	128	49.5	17.9	14.8	16.8
3	69	49.4	17.8	14.7	17.0
4	53	50.5	17.8	14.9	17.8
5	23	49.9	17.9	14.6	17.4
6	20	51.0	18.6	15.3	17.1
7	15	47.1	16.6	13.0	17.5
8	13	48.8	16.6	15.1	17.1
9	3	45.3	19.3	10.7	15.3
10	1	—	—	—	—
11	1	—	—	—	—
12	2	58.5	20.5	16.5	21.5
13	2	73.0	27.0	23.0	23.0
14	3	43.3	15.3	12.3	15.7
15	0	—	—	—	—
16	6	49.3	16.8	14.8	17.7

き」「説得しても無駄である」による対応消極群のSOC平均値は46.8,「説得して止めるように努力すべき」「あらゆる手段で阻止すべき」による対応積極群のそれは49.9であった。それらのt検定の結果,対応積極群は消極群より有意(p<.001)に高かった。3因子では処理可能感,有意味感で前者は後者より有意(共にp<.001)に高かった。なお,対応積極群がSOL準拠群に占める割合は78.5%,QOL準拠群に占める割合は26.2%であった。

表23 自殺はどのような行為か

	n	SOC. ave			
		total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)
弱者の愚行	23	49.9	18.5	15.1	16.3
個人の価値観に基づく正当行為	90	44.4	16.8	13.0	14.6
複雑で分からない	304	48.9	17.6	14.7	16.6
生命に反する行為	107	50.9	17.6	15.3	18.0
迷惑行為	46	47.8	18.0	14.8	15.0
複数回答	3	44.0	14.3	13.7	16.0
無回答	5	50.0	18.8	14.2	17.0
total	578	48.5	17.5	14.6	16.4

表24 自殺はどのように対処すべきか

	n	SOC. ave			
		total (/91)	co (/35)	ma (/28)	me (/28)
放置すればよい	20	44.2	17.3	14.1	12.8
真意を受け止めるべき	193	47.2	17.3	14.1	15.8
説得しても無駄である	27	46.3	16.7	14.0	15.6
説得して止めるよう努力すべき	230	49.1	17.6	14.7	16.8
あらゆる手段で阻止すべき	98	51.5	18.4	15.4	17.7
複数回答	6	46.0	15.3	14.3	16.3
無回答	4	44.3	15.3	13.8	15.3
total	578	48.5	17.5	14.6	16.4

IV 考 察

以下では、医療教育論のためにGRRsに関わる論点を整理する。

1) 今回のSOC平均値48.5はプレテストの48.1より高いが、その間に有意差は認められなかった。この結果は、分析対象数の増加と時間的経過によっても、SOC平均値に変化がなかったことを示している。これらの数値は先行研究²⁻⁴⁾よりも低い、有意差検定は不可能である。上記SOC平均値は、今後の測定値評価の目安として提示するのみである。

2) 上級生ほどSOC平均値が低い、という今回の結果について、先行研究⁸⁾には医療教育には学生を動揺させ、不安を高め、防御的リソース(GRRs)を脆弱化させる傾向がある、という見解が見られる。しかし今回の調査だけでは同調できない。すでに述べたように、今回は個別集団の一時点のSOCを測定したにすぎないため経時的変化は分析できず、またB学科しか4年生について調査できなかったからである。本研究の次の課題である。

3) 「暮らし向き」調査で明らかになった学生の経済生活の儉しさには、近年の経済不況の影響が垣間見られた。貧窮は人間の意志をくじく強大なストレスであるが、たとえ貧窮にあっても医療職をめざす学生の意志を支えるために医療系大学が提示できる種々の

制度は、厳密な判断のもとで運用されることを条件に、学生にとってストレス対処能力を維持するのに役立つGRRsの重要な一部と考えることができる。

4) 「大学生生活」の検定結果からSOC平均値を高めるGRRsに関わる論点として、①現状に対する適応、②自律性と集団行動、③交際範囲の広さ、④同学科同級生・教員および事務職員への関心、⑤学生自治会・サークル・Students JOBなど自発性に基づく活動への関心、をあげることができる。

上記④は学生生活の基礎的関係であるが、特に同学科同級生は相互扶助に基づく共同体であると言える。従って同学科同級生を助ける意志が不明確な者のSOC平均値は極めて低く(表21)、同学科同級生はSOC維持に不可欠のGRRsと考えることができる。

また同学科教員があいさつを要し、助けてくれる人であるとすれば、学生は教員に統治的役割を見ており、事務職員に行政的役割を見ていと推測することができる。とすれば、学科学年ごとの独立性は極めて高いと言える。このことはまた、他学科の構成員、先輩・後輩への関心が現状ではSOC平均値にあまり影響していないことから見て取れる。

しかし上記①、②、③から言えば、他学科の構成員、先輩・後輩への関心こそSOC平均値向上の鍵となるはずである。実際に⑤は学科横断的・学年縦断的なアソシエーションであり、⑤に関心を示した学生の

SOC 平均値は高かった。

ただ上記 GRRs は回答者の主として有意味感に訴えるものであった。把握可能感が辛うじて「助けてくれる相手」で検出されたが、処理可能感は無であった。今後、学生のストレス対処能力を向上させるには、それらに対応する GRRs の検索が必要である。

5) SOL 準拠群の SOC 平均値が QOL 準拠群のそれより有意に高く、QOL は準拠者に傍観者となることを許容したが、SOL は許さず、断固とした行動を志向させていた。SOL はこれまで医療職を励ましてきた倫理原則であるが、学生にもストレス対処能力を向上させる GRRs であることを再確認した。

しかし自殺行為という極端な場合を除けば、医療現場では世論の QOL 要求に応えざるを得ない。そのため、医療職は個々の患者の生き方を洞察・理解することを求められる。この観点から言えば、回答者の把握可能感に対応する GRRs の検索は本研究が今後答えるべき大きな課題となる。

謝 辞

本研究に理解を示して頂いた高橋清久先生をはじめ、調査にご協力頂いた諸先生方、忙しい時期に快くアンケートに協力してくれた学生諸君に感謝申し上げます。

助成金

本研究は、平成 21 年度藍野大学枠外研究資金の助成を受けた。

文 献

- 1) 岸田秀樹, 足利学. 都市勤労者型自殺予防のための地域的資源の検索に向けて・医療系大学生の首尾一貫感覚 (SOC) と地域的連帯との関係についてのプレテストに基づいて. 藍野学院紀要 2010; 23: 12-23.
- 2) 江上千代美. 看護学生の首尾一貫感覚と精神的健康度との関係. 心身健康科学 2008; 4 (2): 43-8.
- 3) 辻岡芳美他. 看護学生の成人看護学実習における態度とアイデンティティ, 首尾一貫感覚との関係: アイデンティティ尺度および日本語版 SOC 尺度による分析. 公立甲賀病院紀要 2003; 6: 31-6.
- 4) 本江朝美他. 女子看護学生の Sence of Coherence とその関連要因の検討. 昭和医学会誌 2005; 65 (4): 365-73.
- 5) アントノフスキー, A. (山崎喜比古他訳). 健康の謎を解く: ストレス対処と健康保持のメカニズム. 東京: 有信堂高文社; 2001.
- 6) Antonovsky, A. Orientation to Life Questionnaire. In: Antonovsky, A. Unraveling the Mystery of Health. San Francisco: Jossey-Bass Publishers; 1988. 189-94.
- 7) 岸田秀樹他. 行為論的研究に基づく自殺予防へ向け. 藍野学院紀要 2007; 21: 119-30.
- 8) Bernstein, J. et al. Gender differences over time in Medical School Stressors, Anxiety, and the Sence of Coherence. Sex Roles 1991; 24: 335-44.